

気候変動への対応

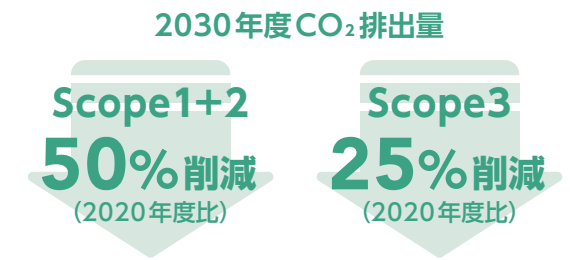


脱炭素推進の新組織設立とその取り組み

当社グループが掲げたCO₂排出量削減目標の達成に向け、各カンパニーの役割を落とし込んだ施策を策定・実行することに特化した組織活動として、新たに「ロードマップ委員会」を立ち上げました(P.9)。カンパニーごとにロードマップを作成し、各カンパニーがPDCAを回して自律的に取り組みを推進できる体制を目指しています。

一方、従来の脱炭素ワーキンググループは、全社の脱炭素の目標策定、啓発活動や太陽光発電など各社共通の脱炭素技術の収集提供、サポートなど全般的な活動を担っています。2024年は社内の情報掲示(いしずか瓦版)を利用し、CO₂排出量の状況や、自作の動画配信などで脱炭素行動に向けた従業員への啓発を行いました。

CO₂排出量削減目標(SBT認証取得)



目標3 2027年度CO₂排出量(Scope1+2)30%削減

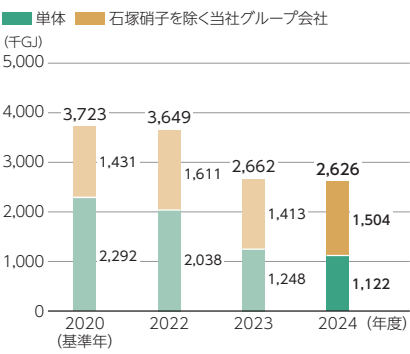
エネルギー使用量とCO₂排出量(Scope1+2)

2024年度の総エネルギー使用量は、当社グループ全体で2,626千GJ(前年度比1.4%減)となりました。2022年12月に姫路工場のガラスびん生産を停止したことで都市ガス使用量が減少しました。なお、日本パリソン(株)東京工場は、2022年7月から購入電力の一部に非化石証書による再生可能エネ

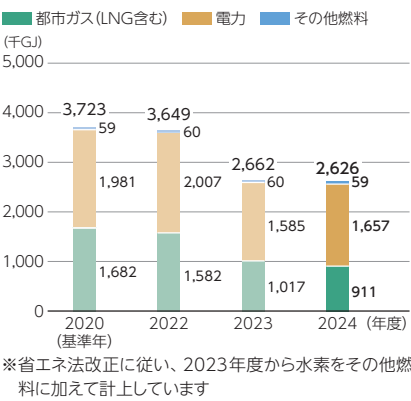
ギー電力を引き続き導入しています。

当社グループのCO₂排出量(Scope1+2)は、124千t-CO₂(前年度対比8%減、2020年度対比33%減)となりました。一部の電力会社のCO₂排出係数が下降した影響もあり、CO₂排出量の減少はエネルギー総量の減少幅よりも大きくなりました。

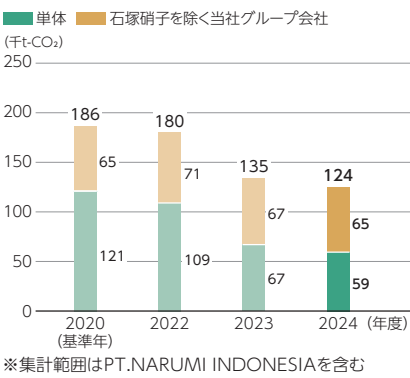
総エネルギー使用量(単体・当社グループ)



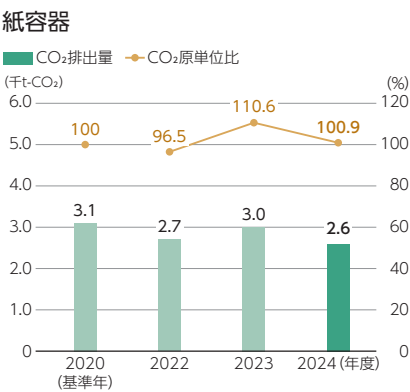
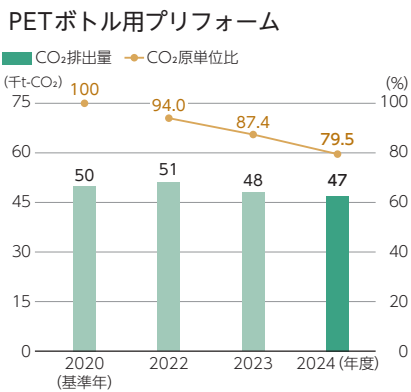
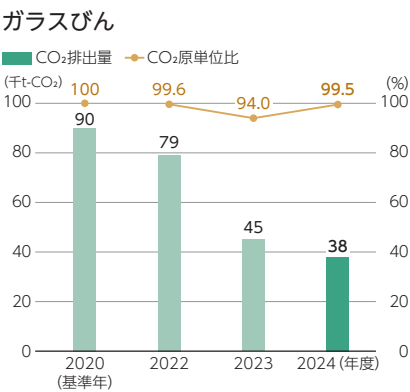
総エネルギー使用量(エネルギー源別)



CO₂総排出量(Scope1+2)



主要製品のCO₂排出量実績



生産プロセス改善によるCO₂排出量削減のおもな取り組み

カンパニー・グループ会社	取り組み内容
石塚硝子 ・ガラスカンパニーほか	ガラス容器事業では、ガラスびん事業の溶解炉の大規模補修と生産ラインの合理化を2024年10月より実施し、2025年1月より新たな生産を開始しました。溶解炉エネルギー最適化への更新と生産ラインの合理化による脱炭素効果を見込みます。省エネ活動では、印刷焼付炉の燃焼方法の見直し、型焼炉の運用および放熱ロス削減、成型後の保温ガス使用量削減など、各委員がテーマを設定し改善に取り組みしました。省エネ活動での削減実績は2022年～2024年度の3カ年で、2020年度基準の2%相当である24千GJ(1千t-CO ₂)となり、3%目標には未達となりました。ただし、3カ年での1号炉、8号炉冷修工事による効果を含めると、3カ年累計で230千GJ(11千t-CO ₂)の削減効果となりました。
日本パリソン	東京工場では、2022年7月から継続して、購入電力の一部に非化石証書によるCO ₂ フリー電力を導入しています。また新姫路工場では2024年7月からPPAによるソーラー発電システムが稼働しています。省エネ活動については、原料など温度管理の最適化やのチラーなど設備更新により、391t-CO ₂ 相当の削減になりました。今後、他ラインへの水平展開を計画しています。
石塚王子ペーパーパッケージング福岡工場	制御盤クーラーの更新、フロアーのこまめな停止運用などを実施しました。また2023年度末に更新したエアーコンプレッサー、空調機の効果が2024年度に反映され39t-CO ₂ 相当の削減につながりました。
鳴海製陶	産業器材部門では、焼成方法の効率化による焼成枚数の能力アップや照明のLED化により8t-CO ₂ 削減しました。食器事業部門では、乾燥や焼成工程の省エネルギーに取り組んでいます。グループ会社の三重ナルミ(株)では焼焼炉積み効率の向上を、インドネシア工場(PT.NARUMI INDONESIA)では、老朽化したコンプレッサーの更新や陶磁器を焼成する際に使用する台車の軽量化と、乾燥工程の熱源をガスから電気に切り変えるなどの省エネにより、全グループで255t-CO ₂ の削減につながりました。 また、食器事業では商品の一部(フローラルパラダイスシリーズなど)に、原料調達から製造過程、販売店への配送までに排出されるCO ₂ を相殺する「カーボンパス」を付与して販売しています。2024年度は29.6t-CO ₂ (2022年度比1.7倍)の削減に寄与しました。 WEB 地球環境にやさしい企業であり続けるために https://www.narumi.co.jp/sustainable-development/sustainable_01/

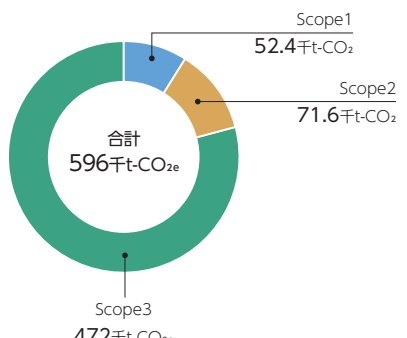
Scope3の算出

2024年度CO₂排出量およびScope別内訳

Scope・カテゴリ		排出量(千t-CO ₂)			
対象範囲: 当社グループ		2020年度 (基準年)	2022年度	2023年度	2024年度
Scope1		98.0	94.9	58.5	52.4
Scope2	マーケット基準	87.5	84.9	76.1	71.6
	(ロケーション基準)	—	—	(80.2)	(83.1)
Scope3		430	452	490	472
カテゴリ1	購入した製品・サービス		367.4	395.7	373.7
カテゴリ2	資本財		18.6	29.0	28.4
カテゴリ3	Scope1・2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動		36.2	26.6	28.5
カテゴリ4	輸送・配送(上流)		14.4	15.6	14.7
カテゴリ5	事業から出る廃棄物		0.6	0.3	0.6
カテゴリ6	出張		0.4	0.7	0.6
カテゴリ7	雇用者の通勤		1.1	1.1	0.9
カテゴリ9	輸送・配送(下流)		1.8	2.5	3.2
カテゴリ12	販売した製品の廃棄		11.1	18.5	20.9
カテゴリ13	リース資産(下流)		0.7	0.3	0.6
合計		616	632	625	596

※合計値はScope2のマーケット基準値を用いています
※集計範囲: PT.NARUMI INDONESIAを含む

2024年度Scope別CO₂排出量の割合



Scope3内訳カテゴリ別構成比率

